

この地であつたこと

古堅中学校3年 池原小百合

戦争。それは、2度とあつてはいけない悲しい出来事。戦後63年、今、生きている日本人の半分以上は、戦争を体験していない未体験者。私も、もちろん未体験者。

私の周りには、祖父母がいて、戦争体験者です。私の祖父は、目が悪かったので、戦争にはいかず、「山原へ逃げた。」と言つていました。「もし、あの時目が良くて、戦争に参加していたら？」改めて、考えてみるといつも隣にいる祖父がいなかったかもしれせん。そして、私も生まれていなかったかもしれません。今、私の周りにいつもあたりまえにいる友達もそうです。祖父は兵隊として戦争には参加しなかったけど、どんな思いで山原まで逃げ、そこでどう過ごしたのかと考えると、つらくなります。死体やケガをしている人をたくさん見て、苦しむ声、叫び声を聞きとても不安だったのではないか？

この読谷村でも、集団自決がありました。自決・それは神様からもらった大切な命を自ら断つ。この世で一番悲しい事です。その当時の日本は、日本国の為に死ぬという考えでした。そう教育されてきたからです。本当に納得して自ら死を選んだのでしょうか。戦後63年、残念ながら命を断つ者がいます。それが、自殺です。戦争の時に、死にたくないのに「命令」というだけで死んでしまった人。しかたなくしんでいった人がほとんどだと思います。それなのに、今の自殺は「苦しいから。」「もうイヤになったから。」などです。確かに苦しいかもしれない。イヤかもしれない。私もわからないわけではありません。それでも、あのとき、自決した人と比べると苦しみの度合いが違うと思います。追い詰められて、自分の家族を殺し、そして自ら命を断つ。また、逃げまわっていた住民も「生きる」ことを求めて必死だったと思うのです。「生きたい」という強い意志があるからどんな困

難にも向きあい、頑張ってきたと思うのです。

今は、その困難に向きあう力が弱いような気がするのです。同じ「死」かもしれませんが、「生」をうけた以上、精一杯、生き、問題に正面からどんどんぶつかる精神的な強さが必要なのではないでしょうか。それが、戦争で亡くなった人への供養にもなるのではないかと思います。

この戦争という悲しい出来事は、この沖縄で起きた決して着せない事実です。戦争は、私達人間に命の大切さを訴えているようなきがします。空襲、自決、飢えなどいろいろな死に方で、多くの人々が亡くなりました。

その事を私達は心にとめ、命の大切さを次の世代へと伝えていかなければなりません。

戦争未体験者の私達でも出来る事。それは「戦争を考え、命の大切さ」を一人一人が考え、訴えていくことだと思います。平和な未来を作るのは、私達人間なのです。それを忘れないかぎり、2度とあの悲しい出来事は、

起こらないと私は信じます。

そして、生きのびてくれた祖父母を大切に
していきたいと思います。